

源流のテント泊・イワナ釣り

2013.7/13～14

今年 2 回目のテント泊釣行に行きました。場所等は秘密にします。(すでに釣り雑誌等に掲載されて今ではイワナの宝庫ではありませんが) 16 年ほど前、当時の職場の釣り好きの連中が好んで行った所です。彼らはもう時効だと思うので記しますが、

ゲート



一般車通行止めのゲートを軽トラに乗せたバイクに乗り換えて釣り場近くまで行きました。当時は面白いように釣れた(いわゆる入れ食い)ようです。一人 50 匹は釣ったとの事です。しかし、過ぎし歳月が溪流釣りのブームと合わせて、様変わりしていました。3 時間以上歩いて到着した現地のイワナの姿は極少なかったです。でも大自然の溪流端でのテント泊と、重いザックを背負って釣りながら源流を 6 時間以上かけて詰めた達成感は何とも言えませんでした。同行

者及び情報を提供してくれた松本市の H さんに感謝します。

初日は 7:20 頃歩き出す。25 分でゲートへ到着。2 時間の林道歩きの予定が、1 時間は良かったが残りがかつての林道の想像とは全く「想定外」の道になっていました。40CM 幅の踏み跡はあるが、



熊笹や雑草・樹木が覆いかぶさった道になっていた。所所にある「カーブミラー」が、かつて車が走った林道の名残として残っているが。旧林道から目的地の沢への下降点を慎重に探した。高低差も距離もあるので、小沢を下る事に決めた時に、若者 4 人組(内女性一人)が追いついて来た。茨城ナンバーの車で来た連中だ。彼らもテント泊での沢歩きと釣りとの事。今回行き会った唯一のグループだ。彼らは我々より沢を 40 分下った所にテントを張るようだ。急な小沢を下った所に開けたテン場に最適な場所があったので早速テントを設営

する。

大自然に囲まれた良い場所だ。枯れ木も沢山あって焚火には全く不自由しない。今回は降雨も予想してビニールシートも張った。一段落して早速今日のつまみを釣りに行く。しかし「想定外」の魚影の無さに慌てる。二人で1匹釣れただけ。こんな筈では無かった！今度はテン場まで戻って釣り下がる事にする。しかし全く「あたり」も無い！

1時間以上釣り下がり、別の支流に入ろうとしたら、先ほどの茨城グループが釣りから戻って来た。2匹釣っただけと言う。彼らが入渓した後の釣りは厳しい！（イワナ釣りは先行者がいるとダメです）それでもこちらは背水の陣。腕で釣ってやるしか無い。気合を入れて釣り上がるが1匹釣れただけ。霧雨も降ってくる。今日は2匹の宴会だ。骨酒用に日本酒を五合持参したので、2匹を骨酒にさえば塩焼き用も無い！最悪だ。諦めてテン場へ戻る事にするが気が重い。釣り下った沢の途中で沢の水が降雨で少し笹濁りになっているのに気が付く。イワナの姿も初めて目撃する。最後の賭けに出て又竿を出す。これが大成功！次から次と面白いように釣れる。テン場までの500Mほどで二人で11匹釣る。本当に不思議だ。我が40年近い釣り人生でも特筆ものだ。イワナ釣りの経験上では雨降りの最中と増水・笹濁り状態は良く釣れる事は経験済みだが、それにしてもこの区間は茨城組が歩いた所だし、我々も1~2時間前に釣り下った所。しかもその時は全く魚影もあたりも無かった所だ。結果オーライ！テン場に戻ったのはそんなこんなで16:00近くになってしまった。

テン場の横の沢



初日の釣果



霧雨も上がり焚火も順調に燃え上がり、暗くなるまで塩焼き・味噌焼き（ハラワタを抜いた後に味噌を詰めて銀紙で包み蒸し焼きする）刺身をつまみに沢に冷やしておいた缶ビールで乾杯のあとは、骨酒を飲む。3匹も塩焼きサイズを使った豪勢な骨酒だ。夜中に肌寒いので、タイツと長袖のTシャツを着こんだ。此处は猛暑とも無縁な別天地だ。

2日目は6時起床、焚火をして朝食、昨日の塩焼き。味噌焼きの残り3匹を食べる。今日は林道まで沢を源流まで詰める事にする。重いザックを背負って釣り上がるのには体力的（膝・腰）に不安もあるが（しかも昨日の釣り上がった感じではイワナも極少ないだろうし）「源流を詰める」と言うロマンにする。8:00 出発。矢張り魚影もあたりも無い。昨日引き返した所から上流に賭けるが矢張りイワナ気が全く無い。途中ショウキランが綺麗に咲いていた。

ショウキラン



3時間位してやっと1匹釣れる。続けて二人で合計8匹釣る。以降又イワナ気無しが続く。水量も段々細くなっていく。イワナが遡上できそうも無い小さな滝があり此処が魚止めの滝と思い、2日目はビクに氷も無いので早めにイワナのハラワタをとって塩を塗る事にする。昼食・休憩を兼ねて。相棒は此処で納竿。私は何処までイワナが棲息するのか知りたくて釣り続ける。暫くして思わぬあたり

りがある。そのすぐ上のいそうなポイントで22cmクラスが釣れる。

釣れました

釣ったイワナと場所

上流の溪相



気を入れなおすが以降又全くイワナ気無しが続く。蛇に合わないのがせめての救いか。体力的には持ちそう。14:00過ぎにやっと林道に出る。想定外の1匹のわたを抜いて塩をぬる。相棒の着眼点が素晴らしい事に尾ひれが少し切られているのに気付く。いわゆるマーキング。イワナ釣りの世界では「隠しイワナ」と言って、本来棲息していない場所に釣ったイワナを放流する事があります。

(大きくして、増やしてから自分一人が釣りを楽しむために) 気温の低い初期に釣ったイワナは2時間くらいはビクの中で生きています。

源流に



毎年 2/16～の解禁から 4 月頃までに釣ったイワナは私の場合でも自宅に戻ってワタを抜こうとした時にまだ生きているイワナは沢山いました。生命力の極めて強い魚です。気温も上がってきた林道を下る。アサギマダラが沢山飛んでいて、またたびの葉が半分白くなったのが目につく。途中に住む、イワナは珍しいだろうと思う人に置いて、同行者には我が家で氷をやる。まだ自宅まで時間がかかるので、腐敗防止用に。一夜明けて矢張り腰・膝の痛みとふくろはぎ・腿の筋肉痛です。今日休めで良かったです。

次は何処へテント泊釣行するかはすでに場所は決めてあります。9 月の中・下旬です。今から楽しみです。

2 日目の釣果

